

西光寺だより

第二十五号 平成二十四年九月一日発行

賑やかだった夏が落ち着きを取り戻し、少しずつ秋の気配を連れてくる九月となりました。日中はまだ暑いとはいえ、朝夕は過ごしやすくなつてまいりました。

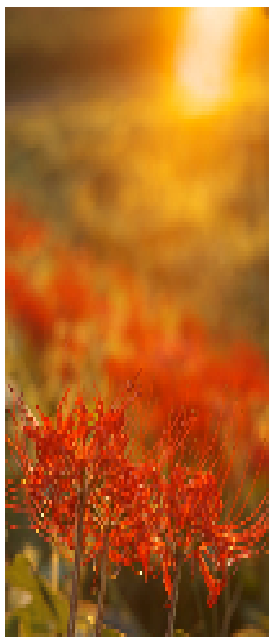
心地よい風のふく秋の夕暮れどきは、夏の強い夕焼けとは違ったやわらかさを感じることができそうです。なんだか陽射しも色も日を追うごとにまあるくまあるく融かしてくれているような気がします。

春と秋にはお彼岸があります、わたしたちが生きている迷いの世界が「此岸」であるのに対し、「彼岸」は悟りの世界、浄土のことを言います。そして、阿弥陀仏の極楽浄土は「西」にあるとされています。ちようどお彼岸の中日となる春分、秋分の日には太陽が真東から昇り、真西に沈む日でもあることから、この西に沈む夕日が極楽浄土への道しるべとなると考えられたようです。

浄土真宗においてお彼岸は、私たちが阿弥陀仏のお心を聴聞し、念仏を申す人となることを確認する法縁としてあります。

やわらかな夕暮れを眺めると、こちらの気持ちまでまあるくしてもらえらるような気持ちになります。まるで日常の中でいつのまにか固くなつた心まで、ゆつくりゆつくり融かしてもらえらるようです。

「慌てず、焦らず、一日を大切にして生きなさい」、秋の夕日からそんな声をいただきながら、今日の日に感謝し、念仏いたしたいと思えます。



◆九月の行事◆

・九月〆

在家報恩講

・九月十三日 (木)

大谷本廟墓参

(みのり講・穂積講の方)

午後二時 大谷本廟お茶所集合

・九月二十三日 (日)

仏教婦人会報恩講

午後一時〆 西光寺本堂

・九月二十九日 (土)

秋季永代経法要

午後二時・七時 西光寺本堂

・御講師 宮部 雅文 師

(誓覚寺住職)

● 今月のことば ●

「**帰命無量寿如来**」

きみようむりようじゅによらい
なもふかしぎこう

「**南無不可思議光**」

現代語訳 限りない命の如来に帰命し、思いはかることのできない光の如来に帰依したてまつる。
〔『顕浄土真実教行証文類（現代語版）』〕

「正信偈」のはじめにあるこの二句は、親鸞聖人が「正信偈」をお作りになろうとして、まずご自身の信心を表明されたものです。

第一句に「無量寿如来」、第二句に「不可思議光（仏）」という仏さまの名前が出ていますが、どちらも「阿弥陀仏」のことです。

浄土真宗の本尊は阿弥陀仏一仏です。親鸞聖人は、阿弥陀仏の救いにおまかせする、という信心のもと「正信偈」をお作りになられたのです。

◆ 先月の報告 ◆

①八月五日（日）西光寺本堂にて細川家初参式をご家族の皆様とともに厳修致しました。新たないのちの誕生には数限りない先人様方のいのちのつながりがあります。ひとり、ひとりのいのちがこの新たな命に繋がった喜びを皆様と感しながら、阿弥陀様へ感謝のご報告をさせていただきます。

十二札というお経をお勤めさせていただき、皆様でお焼香を致しました。

短い時間ではありましたが、一生に一度のご縁に出会わせていた

だいたことに感謝しながらの一日でございました。
初参式、おめでとうございます。



細川 早希ちゃん 初参式



②八月十五日（水）十八時より西光寺本堂にて盂蘭盆会法要を厳修致しました。約四十名の方々と仏説阿弥陀経をお勤めし、皆様でお焼香をいたしました。先に逝かれた方々を偲びながらの時を過ごしましたが、皆様はどういうお気持ちでお参りされたでしょうか。

浄土真宗の仏事は、追善回向ではありません。亡き人は、浄土より阿弥陀仏のはたらきとともに、常日ごろから私たちに対して真実への目覚めを促してくださっています。

阿弥陀如来のお慈悲を仰いで、私たちがお念仏をよるこぶ人となることにお盆の意義があり、それがひいては先祖のご恩に報いることとなります。ですから、盂蘭盆会にて皆様でお念仏することは、ご先祖様への感謝につながっているのです。

暑い中、ようこそのお参りでございました。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>